

金豹賞受賞を皮切りに、20か国以上の海外映画祭上映が決定！

企画・制作 朝日新聞社メディア事業部 広告特集

ロカルノ国際映画祭金豹賞《グランプリ》受賞!!



18年ぶりの快挙!

珠玉の
ロードムービーを
世界が絶賛!!

俳優陣の表情と気配が素晴らしい
表情と気配が素晴らしい

三宅唱監督が原作に選んだ、つげ義春の「海辺の叙景」「ほんやらのべんさん」は、私にとっても特別な作品です。想像を超える出来栄の素晴らしい映画になりました。

前半は「海辺の叙景」を下敷きにした作中作、後半は自信を無くした脚本家の女性が旅に出て再生していくという物語。「原作に忠実な部分」と「三宅監督が覚悟をもって舵を切った部分」の境目が鮮明で見事でした。たとえば土砂降りの海で女性が泳ぐ男に向ける「いい感じよ」という有名な台詞。私はロマンティックに捉えていましたが、映画はそこに死の予感を忍ばせます。

この作品の魅力は、私たちが慣れ親しんでしまった「説明過多の快適さ」から意図的に距離を取っていることです。冒頭しばらく会話も説明もなく、不安に感じるかもしれません。だからこそ観客は、次に何が起こるか集中して観てしまうのです。これは作品のテーマが「旅」であることと深く関連しています。偶然性と未知性の塊のような旅には、何が起こるか分からないという面白さがあります。

また、会話がいさし成り立たない場面がありますが、これは言葉による安易なラベリングから解放されることを表しています。主人公の李は「旅とは言葉から離れようとするものかもしれない」という導きによって旅に出ますが、「旅」温



泉や美術館めぐり」という言葉の定義から外れた旅をすることで、脚本家として囚われていた「言葉の檻」から抜け出すことができます。旅先で宿が見つけられず「ここなら泊まれるかも」と指した先が、地図の外というユニークなシーンがその象徴です。

俳優陣の表情と気配が素晴らしい
俳優陣の表情と気配が素晴らしい

河合優実さんは三十分近く笑わず、緊張感を与えます。荒海で男に「唇をくく青くなつて」と告げるかすかな幸福感を帯びた表情も圧巻です。シム・ウンギョンさんの脚本家役へのチューニングも見事。ご自身の経験と響き合う説得力がありました。堤真一さんは本人と気づけないほどの役作りで、シムさんとの会話の間が最高でした。

偶然性と未知性というのは、コスパやタイパが重んじられる時代には排除されがちな価値観のようですが、本来、日常も偶然と未知のかすかな変化の連続です。旅に出ることで、主人公はそれに少しずつ気づいていきます。彼女が持ち歩く古いカメラも、肉眼のルーティンから抜け出すシンボル。何も起きないように見える見慣れた景色を「もう一度、初めて見るようにする装置」と言っているように。この映画には全編を通して三宅監督が施した「自分の心持ちを変化させてくれる細かい符号」がたくさん散りばめられています。そんな旅先の小さな宝物との出会いを探し当てることが、本作の楽しみ方のひとつかもしれません。

映画館を出た後に自分自身に
前向きな変化を感じられる

ヒーローが大きなことを成し遂げる映画を観ても、自分の成長は得られませんが、この映画なら自分が少しだけ前に歩み出ることができるようになれる。行き詰まりを感じて旅に出た主人公と一体化することで、映画を観た後に自分がほんの少し変わって、日常が変化していく。大きな出来事が起こるわけではない映画なのに、自分の心持ちを少し変えてみたくなるような、不思議な回復力を秘めた作品です。

私たちはどうすれば後悔のない人生を送れるのか。私は「思い出に満ちた人生」が理想かなと思います。しかし現実には、面倒を避け、既にラベリングされた「☆の数が多いもの」だけを選ぶうちに経験は均質化し、思い出を減らすようにして生きている。この映画は、その罠から抜け出す手がかりを示してくれます。小さな偶然、計算できない出来事、言葉ににくい出会いに心を開いていくこと。私は、この映画が促すその一歩に、確かな「いい感じ」を受け取りました。

(談)

小さな出会いが、心を回復させていく。
かすかだけれども、人生を変える物語。公開記念
スペシャルインタビュー心と身体にとつての
ウェルビーイングのよう「夜明けのすべて」「ケイコ 目を澄ませて」
三宅唱監督 最新作

旅と日々

11/7(金)

TOHOシネマズ シャンテ、
テアトル新宿ほか全国ロードショー公開劇場情報
はこちら! ↓

www.bitters.co.jp/tabitohibi

STORY

強い日差しが注ぎ込む夏の海。ビーチが似合わない夏男が、陰のある女・渚に出会う。何を語るでもなく、なんとなく散策するふたりは翌日、また浜辺で会う。台風が近づき大雨が降りしける中、ふたりは海で泳ぐのだった……。つげ義春の漫画を原作に映画の脚本を書いた李。「私には才能がないな、と思いました」と話す。冬、李はひょんなことから訪れた雪国で旅先の山奥でおぼろ宿に迷い込む。雪の重みで今にも落ちてしまいそうな屋根。やる気の感じられない宿主、べん造。暖房もない、まともな食事もない。布団も自分で敷く始末。ある夜、べん造は李を夜の雪の原へと連れ出すのだった……。

監督・脚本：三宅唱、原作：つげ義春「海辺の叙景」「ほんやらのべんさん」出演：シム・ウンギョン、堤真一、河合優実、高田万作、佐野史郎、斎藤陽一郎、松浦慎一郎、足立智充、梅舟惟永 配給・宣伝：ビターズ・エンド © 2025「旅と日々」製作委員会

舞台挨拶付前夜祭

劇場：TOHOシネマズ シャンテ
【登壇予定者】三宅唱監督
シム・ウンギョン、堤真一、高田万作（※敬称略）

11月6日(木)

19:00の回上映前

トーク+Q&A

劇場：テアトル新宿
【登壇予定者】三宅唱監督、シム・ウンギョン（※敬称略）
詳細は公式サイトへ！

11月9日(日)

12:00の回上映後